

全労金2014春季生活闘争ニュース・第13号

**回答期限日を翌日に控え、
各単組では、要求に拘り、断続的な交渉を展開しています！**

◎すべての組合員で決定した要求に拘り、一体となった交渉を展開しよう！

全労金の2014春季生活闘争は、全労金組織が一体となって闘う「統一闘争」と位置づけ、これまでの全労金・単組の取り組みを踏まえ、「安定雇用」「公正処遇」を最優先課題に、アール・ワンシステムへの移行対応を中心とした労働金庫で働くすべての職員の奮闘、及び、連合方針に基づく労働界の対応や様々な社会情勢等を背景に、すべての労金労働者の総合的な生活改善に向け、要求書を提出し、交渉を展開しています。

しかし、3月20日までの交渉では、回答期限を目前に控えた状況でも、多くの金庫・関連会社が、労働組合の要求通りに回答する姿勢を見せていません。

交渉が難航している金庫・関連会社が主張する「経営環境が厳しい」「本業部分の収益が悪化している」については、職員の働き方の問題ではなく、経営者としての検証や判断が求められるものです。アール・ワンシステムの費用負担や貸出金の伸び悩み等は、突発的に発生したものではなく、金庫政策として、将来を見据え、十分に検証した上で、判断してきたものと認識しています。また、「コストを削減しなければならない」とする見解も示しますが、労働金庫で働くすべての職員は、金庫・関連会社にとって最大の“人財”であり、単純な“コスト”ではありません。当然、私たちは、金庫経営も十分に認識し、効率的な事業運営や経費支出等に関しては、労働組合として協力できるものは真摯に対応しています。仮に、労働組合の要求が、金庫・関連会社の経営に大きな打撃を与え、様々な角度から検証した結果、どうしても応じられないのであれば、厳しい経営環境に陥った原因と要求に応じられない根拠について、すべての職員に誠意ある姿勢をもって、明確に説明することが経営者の責任です。

単組闘争委員会、並びに、組合員の皆さん。全労金と単組は、私たちの処遇や諸権利を引き上げる意志だけではなく、金庫・関連会社が置かれている経営環境も十分に理解した上で、厳選した項目を要求しています。労働組合・組合員の要求に、厳しい経営環境だけを理由に要求通りの回答に応じられないとする姿勢に対しては、交渉の中で厳しく糾し、2014年度の事業計画に邁進するためには、経営者としての判断が使命であることを強く訴えましょう。

回答期限日までは、本日を含め残り2日です。ただし、要求主旨に則った金庫の回答や意志がなくては、闘争を集結することはできません。

すべての組合員の総意で確立した要求に拘りをもって、闘争委員会と組合員が一体となった交渉を継続し、納得ができる回答を引き出しましょう！

以 上